



川西大念仏剣舞

(伝承地：衣川衣里)

北上和賀地方の鬼剣舞に比べ、念仏による衆生済度の意識がより強く、お盆や中尊寺の施餓鬼法会などで精霊供養として踊られてきました。伝承によると、安部一族の亡魂が夜ごと現れたので、藤原清衡が亡魂済度の祈禱をしたところ1匹の猿が現れ、念仏踊りを舞いながら亡霊を成仏させたことに始まる——といわれています。



ユネスコに登録された 日本の無形文化遺産

- ・能楽（平成20年）
- ・人形浄瑠璃文楽（平成20年）
- ・歌舞伎（伝統的な演技演出様式で上演される歌舞伎）（平成20年）
- ・雅楽（平成21年）
- ・小千谷縮・越後上布（平成21年）
- ・奥能登のあえのこと（平成21年）
- ・早池峰神楽（平成21年）
- ・秋保の田植踊（平成21年）
- ・チャッキラコ（平成21年）
- ・大日堂舞楽（平成21年）
- ・題目立（平成21年）
- ・アイヌ古式舞踊（平成21年）
- ・組踊（平成22年）
- ・結城紬（平成22年）
- ・壬生の花田植（平成23年）
- ・佐陀神能（平成23年）
- ・那智の田楽（平成24年）
- ・和食「日本人の伝統的な食文化」（平成25年）
- ・和紙「日本の手漉和紙技術（構成：石州半紙、本美濃紙、細川紙）」（平成26年）
- ・山・鉾・屋台行事（平成28年）
- ・来訪神「仮面・仮装の神々」（平成30年）

※かつこ内は登録年

このような状況から、綾子踊は方針転換を余儀なくされました。「風流」というくくりで連合会を結成し、登録を目指す方向にかじを切ります。

「風流」連合会の誕生

絡を受けた北上市と奥州市は、鬼剣舞4団体の代表を集め、話し合いを行います。突然の提案でしたが、鬼剣舞を世界へPRできる絶好の機会であることなどから、各団体は参加を決定しました。最終的には全国の33団体が賛同し、30市町村、18都府県の自治体が多くなったのです。

そして今年2月1日、全国民俗芸能「風流」保存・振興連合会の設立総会が東京で開かれました。東京へ向かった朴ノ木沢念仏剣舞保存会の三田一男会長と両市の担当者は、全国から集まった団体と合流し、国会議員への陳情や設立総会に臨んだのです。総会で



2月に開かれた設立総会。風流の団体が一堂に会しました

鬼剣舞の勇壮で力強い踊りは、代表的な民俗芸能として評価されるだけでなく、芸能の変遷の過程や、地域的な特色を示す無形文化財としても重要視されています。そうしたことが評価され、北上市2団体（岩崎鬼剣舞保存会、滑田鬼剣舞保存会）と奥州市2団体（朴ノ木沢念仏剣舞保存会、川西大念仏剣舞保存会）は、岩手県から宮城県を中心に分布する東北地方の代表的な民俗芸能の一つです。さまざまな形態がありますが、憤怒の面をつけて激しく踊る剣舞は、「鬼剣舞」という名前で広く知られています。

鎮魂の踊り鬼剣舞

最近では、祭りやイベントなどで見ることが多くなりましたが、本来は先祖の霊を慰めるのが主な目的でした。お盆の時期などに、初盆を迎える家や墓地、寺などで踊られてきたのです。悪霊退散や衆生済度（生き物を救済し、悟りに導くこと）などの意味も持つといわれていますが、何より昔の人々にとっては身近な娯楽でもありました。

登録を目指す綾子踊

鬼剣舞がユネスコ無形文化遺産を目指すことになったのは、香川県まんのう町の佐文綾子踊保存会の活動がきっかけでした。綾子踊は、水不足に悩まされてきたこの地域で、雨乞いのために踊られてきた民俗芸能です。女装した男性が優雅に踊る様子は、初期の歌舞伎の面影を残しているといわれています。昭和51年、国は初めてとなる重要無形民俗文化財に30件を指定しましたが、その中には綾子踊も含まれていました。

その後時は流れ、社会変化で消えゆく無形文化遺産を国家的に保護しようという機運が高まります。ユネスコは「無形文化遺産の保護に関する条約」を平成15年に採択し、18年に発効しました。有形の



優雅に踊られる綾子踊

文化遺産を対象とした「世界遺産」に加え、無形文化遺産も国際的に保護をしていく枠組みが整ったのです。日本は、重要無形民俗文化財などを順次提案し、ユネスコ登録を目指していきます。その中には、早い時期に国指定を受けた綾子踊も含まれていました。日本は順調に登録数を増やしていきましたが、各国から審査依頼が殺到した結果、日本のように登録が多い国は審査が制限されるようになりやすくなります。また、かつて登録された文化遺産との類似性を指摘され、登録に至らないケースが生じるなど、同種の文化遺産を単独で提案するのは難しくなっていました。

朴ノ木沢念仏剣舞

(伝承地：胆沢小山)

平泉の高館で無念の最期を遂げた源義経主従。その亡霊を鎮めるためにつくられた「高館物怪」を継承しているといわれています。1494（明応3）年に高館剣舞から胆沢の都鳥に伝授され、1863（文久3）年になって朴ノ木沢の惣五郎に受け継がれました。本剣舞では、踊り手、カッカタ（仏の化身の猿）のほか、少女の胴取り二人によってストーリーが展開されます。

